センター教員・共同研究論考

コロナ禍の学生経験を把握するための調査設計に向けて
―コロナ禍で行われた学生調査項目の整理を通じて―

中西　勝彦・勝間　理沙・佐藤　万知
（京都大学高等教育研究開発推進センター）

2020 年 4 月以降、新型コロナウイルス感染症予防の一環として、多くの大学がキャンパスの閉鎖、授業のオンライン化、課外活動等の中止などを実施し、学生は通常とは異なる学生生活を経験することとなった。「with コロナ」の生活が長期化する中、これらの学生経験が今後の学生生活や卒業後の生活にどのような影響を及ぼす可能性があるのかが問われるべきであろう。そこで本稿では、コロナ禍の学生経験を把握するための調査設計に向け、2020 年度に行われた学生調査の調査項目を概観し、既に把握されていることの観点を整理し、さらに必要な観点が何かを論じることを目的とした。結果、これらの調査においては、キャンパスを学生の学習経験を豊かにする環境として位置づける視点、および、学生経験が青年期アイデンティティに及ぼす影響という視点が看過されていることが明らかとなった。今後、コロナ禍の学生経験の実態を把握するために、これらの視点を組み込んだ調査の設計が必要である。

キーワード：コロナ禍の学生経験、学生調査設計

1. はじめに
1.1. 問題と背景

2020 年 4 月以降、新型コロナウイルス感染症予防の一環として、多くの大学がキャンパスの閉鎖、授業のオンライン化、課外活動等の中止などを実施し、学生は通常とは異なる学生生活を経験することとなった。その後、緊急事態宣言が解除されると、初中高等学校においては、部活動などは制限されつつも、対面の授業が再開され、徐々に通常の学校生活が戻っていった。そんな中、各大学は、2020 年 6 月 5 日に文部科学省高等教育局長によって示された通知「大学等における新型コロナウイルス感染症への対応ガイドラインについて（周知）」（文部科学省, 2020a）を指針に活動レベルを設定し、感染状況の変化に応じて、対面やキャンパスでの活動を限定したり、緩和するようになったが、特に首都圏や大阪などの大都市に立地する大学ではキャンパスの閉鎖が長期化した。

この背景には、初中高等学校とは異なり大学ではオンラインでの授業実施が可能な環境があったこと、多くの学生が教室空間に集まり接触を繰り返すキャンパス環境では大規模クラスターが発生する可能性が高いことだけでなく、危機感の希薄な若者が感染拡大の要因となっていることを示唆する報道[注1,2]にもみられるような若者批判が影響を及ぼしていると考えられる。すなわち、大学は若者がさまざまな地域から多く集まる場所であり、感染症予防を徹底したとしても、感染リスクをゼロにすることは難しく、対面活動の再開にはさまざまな観点で、慎重にならざるを得ない状況があった。

しかし、一方で、一部のメディアではパソコンに向かい続ける大学生の日常やアルバイトなどができずに困窮する大学生の様子などが取り上げられ、大学の対応を非難するような報道[注3]も多くみられるようになった。ツイッター上では、7 月に現役大学生らがハッシュタグ「#大学生の日常も大事だ」を拡散、また 7 月 31 日には細野豪志衆議院議員がキャンパスでの活動を再開しない大学は学生の学ぶ機会を奪っていると批判する（細野, 2020）など、学生は被害者、大学は対応ができていないという世論が形成されていったと言える。

このような状況を受け、文部科学省は 2020 年 8 月下旬に全国の国公私立大学および高等専門学校を対象として、「大学等における後期等の授業の実施方針等に関する調査」を実施し、約 8 割の大学が対面と遠隔の併用を予定しており、全ての大学で施設利用を可能にする予定であるとの結果が得られていることを公表した（文部科学省, 2020b）。その上で、9 月 15 日には「大学等における本年度後期等の授業の実施と新型コロナウイルス感染症の感染防止対策について（周知）」（文部科学省, 2020c）を示すとともに、荻生田前文部科学大臣は全国の大学に、感染対策を講じた上で対面による授業の再開を繰り返し要請した（e.g. 文部科学省, 2020d）。その後、同年 10 月には、

8 月の調査で対面授業が半数未満と回答した大学を対象に再調査を実施し（文部科学省，2020e）、大学名を含めた結果を公表するとして、対面授業再開に対する方向づけを強めていった。

この間、議論の焦点は授業の実施方法にあり、オンライン授業にメリットがあることは指摘されつつも、対面での授業再開が、コロナ禍の学生が抱える課題を解決する方法であるかのような論調が強かった。

オンライン授業の有効性や今後の活用について検討する論考として、学生調査をレビューしたものがある。山内（2021）は、オンライン授業の評価として行われた学生調査から 2 大学の事例を取り上げ、コロナ禍のオンライン授業の質保証について考察している。また、伊藤（2021）は、16 の機関で学生や教員を対象に実施されたアンケート調査をレビューし、①遠隔授業の実施形態、②遠隔授業のメリット・デメリット、③遠隔授業に対する学生の満足度、④遠隔授業の教育効果、⑤コロナ後の遠隔授業継続の希望、の 5 つの観点ごとに結果の共通点と相違点をまとめている。いずれの論考も、学生がコロナ禍のオンライン授業をどのように評価しているかを整理している点で共通している。その後、文部科学省が 2021 年 3 月に実施した「新型コロナウイルス感染症に係る影響を受けた学生等の学生生活に関する調査」では、オンライン授業に対しては満足に感じる割合の方が多いという結果が示され（文部科学省，2021）、結局、授業の実施方法を問題化しすぎだったのではないかということが明らかとなった。

キャンパスでの活動の制限、オンライン授業と対面授業の併用は 2021 年 12 月段階においても継続しており、学生にとっては、一時的ではなく長期的な「with コロナ」の大学生活経験となりつつある。そこで現在問うべきは、このような長期に渡る経験は、今後の学生生活、あるいは、卒業後の生活にどのような影響を及ぼす可能性があるのか、という点なのではないか。ここまで、大学や関連団体等は現状において学生がどのような課題や困難を抱えているのかを把握するために学生調査等を実施し、対応を検討することに注力してきたと言える。このような学生調査は、いずれ、2020 年度を大学生として過ごした世代の経験を示す貴重なデータになるであろう。その上で、学生が大学生として経験していることは多様で、さまざまな観点からのデータの収集と検証が必要だと考える。コロナ禍での学生生活の実態が把握されることで、それ以前の学生生活との比較や特徴の把握が可能となり、長期的な影響を検討する材料になり得るからだ。つまり、長期的な影響を検討するためには、コロナ禍の学生経験の実態を把握するための調査の設計および実施が必要である。

1.2. 本研究の目的

コロナ禍の学生経験を示すデータとして、大学や各種団体が実施した学生調査を用いることができる。しかし、これまで実施されてきた学生調査が、学生経験を把握するのに十分か検討の必要がある。そこで本稿では、コロナ禍の学生経験を把握するための調査設計に向け、2020 年度に行われた学生調査を概観し、既に把握されていることの観点を整理し、さらに必要な観点が何かを明らかにすることを目的とする。

具体的には、コロナ禍初年度にあたる 2020 年度に行われた学生調査を概観し、各調査がどのような調査項目で構成されていたのかを整理する。従って、本稿では各学生調査の結果ではなく調査項目に着目する。さらに、コロナ禍の学生経験の把握という目的に着目した場合に他に必要な観点は何かを論じ、調査設計への道筋を示す。

2. 方法

2.1. 学生調査の抽出方法

学生調査の抽出にあたり、本稿では広島大学高等教育研究開発センターの Web サイト「新型コロナウイルスをめぐる大学教育・オンライン、TA 授業等に関する調査研究、取り組みの動向（情報リンク集）」（広島大学高等教育研究開発センター，2020）を参照し、各機関が実施した学生調査を収集することとした。本情報リンク集を参照したのは、国立大学と私立大学の両方の情報が掲載されており、かつ大学に限らず他の機関の調査も掲載しているためである。本稿では、2020 年 8 月 5 日更新分から 2021 年 6 月 17 日更新分までの計 17 回分を確認し、リンク先の情報を確認したうえで以下の基準で学生調査を抽出した。（1）実施時期が 2020 年度である、もしくは 2020 年度の授業を対象にした調査であること。（2）学生を対象とした調査であること。（3）大学生活やオンライン授業に関する調査であること。ただし、就職活動状況などの確認が目的の調査は除外した。（4）調査概要が明記されていること。（5）質問項目もしくは質問の趣旨が確認できること。ただし、一部項目しか公開されていない場合は公開されている項目のみ抽出した。

以上の基準を満たす学生調査を抽出した結果、36 機関、合計 45 件の調査を抽出することができた（同一機関が複数回調査を行っていた場合、別調査としてカウントしたため、機関数と調査数は一致しない）。なお、抽出に際して、授業評価アンケートのような定期的に行っている調査は除外した。ただし、調査項目にコロナ禍の状況を踏まえた項目を含む調査（e.g. 全国大学生活協同組合連合会）は除外していない。

また、表 1 に各調査主体がどの時期に調査を行ったの

かを示した。今回抽出した調査は、6月から7月にかけて行われたものが多く、およそ半分を占める。また、全体として大学が調査主体になっている調査が多く、8割（36件）を占める。ただし、この割合は2020年度に行われた学生調査全体を代表するものではない。抽出した各調査は付録に示した。

表1　調査実施時期と調査主体の数

実施時期	大学	公的・非営利機関	株式会社	合計	割合
4〜5月	6	0	1	7	16%
6〜7月	20	1	0	21	47%
8〜9月	4	0	0	4	9%
10〜12月	5	2	1	8	18%
1月以降	1	1	3	5	11%
合計	36	4	5	45	100%

2.2. 分析の手順

分析は以下の手順で行った。なお、分析に際しては、川喜田（1967）のKJ法および佐藤（2008）の帰納的コーディングと演繹的コーディングを参照した。

1. 各調査の調査項目を抜き出して一覧表にする。調査項目が独立して記されていない場合は、調査結果から調査項目もしくは調査項目の趣旨を抜き出した。
2. 抜き出した調査項目が何について尋ねているのかを確認し、質問趣旨名を付す。
3. 各質問趣旨を確認しながら類似のものをまとめ、それにカテゴリー名を付す。
4. カテゴリーを概観しそれらを包括するカテゴリー・グループを生成した上で、各カテゴリーをカテゴリー・グループに振り分けていく。振り分け困難なカテゴリーが生じた場合は、当該データの調査項目と質問趣旨を見返しながらカテゴリー名の修正もしくは新たなカテゴリー・グループの生成を行い、整理を行っていく。
5. カテゴリー・グループをもとに整理した一覧表を作成する。

3. 分析の結果

分析の結果、721項目の調査項目が抽出され、それを13のカテゴリー・グループに整理した（表2参照）。以下の各節で各カテゴリー・グループを確認していく。その際、最初に授業関連のカテゴリー・グループを確認し、その後授業外のものを抽出項目の多い順に確認していく。なお、以下ではカテゴリー・グループを「　」で、各カテゴリーを【　】で、質問趣旨を〈　〉で示すこととする。

3.1. オンライン授業

まず、最も多くのカテゴリーが含まれる「オンライン授業」から見ていく。「オンライン授業」には6つのカテゴリーがある。すなわち、【受講環境】【履修登録】【授業評価】【対面との比較】【行動の変化】【その他】である。

【受講環境】とは、オンライン授業の前提である通信環境や使用機器などの状況を確認する項目である。具体的には、インターネットへの接続方法や通信速度制限の有無を確認する〈通信環境〉、通信の良好さや安定性、動画や音声が途切れないか、LMSへの接続や課題の提出ができているかなどを確認する〈通信状況〉、オンライン授業で使用している機器を確認する〈使用機器〉、大学が行っているオンライン環境に関するサポートを利用しているかの確認〈サポート利用〉、オンライン授業をどこで受けているかを確認する〈受講場所〉、〈プリンターの有無〉などがあった。【受講環境】は、多くの大学でオンライン授業が開始された初期の段階である2020年4月〜6月の調査で多く使用されていた項目である。これらの項目を通して、大学は学生の受講環境を把握し、必要に応じて早急な対策を打つことが求められていたという背景も影響しているだろう。

【履修登録】は、学生の履修状況を確認する項目である。当該学期にオンライン授業を何コマ登録しているかを確認する〈履修コマ/科目数〉や、履修しているオンライン授業の形態を尋ねる〈授業形態〉、〈履修時に重視した点〉を複数回答可で選択する項目などがあった。

【授業評価】は、オンライン授業を受けている、もしくは受けた学生が、それをどう評価しているかを確認する項目である。このカテゴリーは全カテゴリーで最多の197項目が含まれていた。まず、使用頻度が高い項目としてはオンライン授業の〈満足度〉と〈理解度〉が挙げられる。両項目とも特定の科目に絞るのではなく、「オンライン授業全体の」と尋ねている場合が多かった。また、オンライン授業の形態別にそれぞれ〈満足度〉と〈理解度〉を尋ねるものや、前の学期と比較して〈満足度〉の変化を問うものもあった。それ以外には、オンライン授業の〈良い点〉や〈困っている点〉、〈不安点〉を複数選択可もしくは自由記述で回答させるものも多く見られた。これらの項目を通じて、学生が感じるオンライン授業のメリットとデメリットを把握し、かつ困っている点や不安点を解消するための方法を検討する材料にしていたと推察できる。また、授業の方法として〈課題、振り返り〉があるか、教員からの〈フィードバック〉はあるか、教員やTA、他の受講生との〈コミュニケーション〉はあるか、などの項目が見られた。他には、授業の〈課題量〉や〈教員の対応〉など、教員の実践を確認するものと、〈（授業内の）学習時間〉や〈授業外学習時間〉はどうだった

表 2　分析の結果一覧

カテゴリー・グループ	カテゴリー	質問趣旨
オンライン授業（373）	受講環境（98）	通信環境、通信状況、使用機器、サポート利用、受講場所、プリンターの有無
	履修登録（24）	履修科目数、履修科目の授業形態、履修時に重視した点
	授業評価（197）	満足度、理解度、良い点、困っている点、不安点、課題・振り返りの有無、フィードバックの有無、コミュニケーションの有無、課題量、教員の対応、学習時間、授業外学習時間、受講態度、集中力
	対面との比較（45）	理解度、課題量、課題難度、授業進度、授業の情報量、学習時間、学習意欲、集中力、教員への質問のしやすさ、良い点、不満点
	行動の変化（7）	履修登録、受講態度、学習時間、プラスの変化
	その他（2）	大学外のオンライン学習経験、目標達成のための直接評価
対面授業（19）	履修状況（4）	履修科目数
	通学経験（6）	1 週間の通学日数、通学頻度、4 月以降初めて登校した時期
	授業評価（9）	満足度、理解度、良かったこと、困ったこと、参加意欲
授業全般（39）	履修状況（3）	ゼミ所属の有無、直近 1 週間の授業形態
	学習時間（5）	1 科目あたりの学習時間、1 日の授業時間
	授業結果（4）	A 評価を修得した単位割合、力が身についたと感じる科目数
	オンライン or 対面（26）	オンラインと対面の適切な割合、自分にあった授業形式、オンライン授業継続意向
	授業の開講状況（1）	授業の開講状況
大学生活（67）	大学生活全般（8）	学生生活の満足度、大学で重点を置いていること、コロナ禍での大学生活の変化/困りごと
	大学進学（4）	大学の入試種別、大学選択の理由、大学進学に対する自己評価、
	退学・休学意向（7）	退学・休学意向の有無、退学・休学の理由、退学・休学を経験した友人の有無
	情報確認（4）	大学発信情報の確認方法、大学発信情報の満足度、大学の方針に関する理解度確認
	学習支援（2）	メンターに助けられたこと、休校中の学習サポート内容
	学習経験（8）	学修の充実度、大学での各種学習の有無/満足度/取り組み意向/達成度
	課外活動（21）	アルバイトの有無/目的/内容/日数/勤務時間/掛け持ちの有無、所属の有無、課外活動参加の満足度、課外活動への不安
	スキル・能力（3）	身につけたい/身につけたスキル能力
	キャンパス（5）	自習室の利用頻度、自習室の利用時間、希望した学習環境の有無、大学の施設が使用できることへの満足度、キャンパスで大学生らしい生活が送れることの満足度
	その他（5）	大学生感覚の有無、学生らしい経験ができないことへの不安、資格・免許取得の不安、学業継続の不安、大学に対する好意
経済状況（51）	収入状況（16）	主な収入源、大学生活費の収入源、アルバイト収入額、本人収入減の有無/程度/理由、保護者収入の変化、生活費収入の対策
	支出状況（10）	支出の状況、アルバイト代の使途、1ヶ月の支出額、1ヶ月に自由に使える金額、通信環境整備のための経費、半年間での特別支出、増額/節約したい支出
	家計状況（3）	暮らし向きの楽さ、家計の変化の有無、今後の見通し
	学費関連（6）	学費の支払者、大学生活費用の支払い方法、家族との経済援助関係、大学教育の価値と授業料の関係、オンライン授業に対する学費の適切さ
	給付金・奨学金（10）	特別定額給付金の使い道、大学からの給付金の有無/金額、学生対象の給付金制度で受給したもの、1 年間で受けた経済的支援、奨学金受給状況/種類、奨学金返還への不安感の有無
	経済的不安（4）	経済的不安の有無、今後の収入に対する不安
	その他（2）	コロナ禍の経済的影響の有無、生育環境の経済的ゆとりの有無
日常生活（38）	生活全般（5）	生活の変化、生活の困り事、楽しさを感じるもの、コロナ禍で新たに取り組んだこと
	生活習慣（17）	生活リズム、食生活、睡眠、気分転換の有無、外出の有無、定期的な運動の有無、在宅時の過ごし方
	メディア利用（14）	SNS の利用経験/目的、インターネット利用の時間/目的、動画の視聴時間、スマホの使用時間
	学習時間（2）	大学以外の学習時間、読書時間
人間関係・コミュニケーション（33）	交友関係（11）	SNS での友人数、大学でできた友人数、一生の付き合いになりそうな大学の友人数、オンラインでの友人づくり経験、友人との出会い、友人関係への不安/悩み
	教員との関係（1）	尊敬できる大学教員の数
	家族との関係（1）	家族に会えなくて困った
	相談相手（9）	相談相手の有無、相談可能な人数、相談相手
	コミュニケーション経験（6）	友人/家族/教員とのコミュニケーション
	対面コミュニケーション（3）	対面交流の満足度、対面での会話量、人と会う機会
	コミュニケーションツール（2）	友人とのコミュニケーションツール、媒体ごとの会話人数
基本情報（25）	所属（15）	学年、学部、学科、性別
	住まい（10）	現在の住まい、通学時間
健康状態（24）	身体状態（5）	体の調子、身体的な健康状態、身体的疲労の有無、身体的辛さの有無
	精神状態（16）	悩み事、精神的疲労の有無、ストレス、イライラ、集中力の欠如、気分の落ち込み、気持ちの変化、楽しめない感覚、孤独感の有無、緊急事態宣言時の気持ち、悩みの軽減方法の有無
	健康状態全般（3）	心身の不調、現在の健康状態
キャリア・進路（17）	将来の見通し（8）	今後の進路、キャリアや就職への不安/悩み
	就職活動（9）	就職活動の不安、内定の有無、就職先選択時の重視項目、インターンシップ参加経験の有無、就職活動における SNS の活用意欲
個人の特性（17）	授業観（8）	講義聴講意向、教員への質問行動、グループワーク参加意向、知識獲得の方法、自身の学習ペース
	社会への関心（6）	興味のある社会問題、SDGs の認知度/関心のあるもの、政治への関心、日本の未来への展望
	ICT（3）	ICT への興味関心/スキルの有無、プログラミングスキルの有無
コロナ関連（13）	感染不安（7）	コロナ感染への不安、コロナ感染の不安を感じる場所
	感染予防策（3）	コロナ感染予防のための行動、衛生面の配慮
	対応策の評価（3）	大学のコロナ対応の評価、政府のコロナ対策の評価
その他（5）	高校の学習経験（2）	高校時の得意/苦手科目、高校時の全国模試の成績
	意見要望（2）	国/大学への意見要望
	自由記述（1）	自由記述

※括弧内の数字は調査項目数を表す

か、〈受講態度〉や〈集中力〉はどうだったかなど、学生の経験を確認するものとがあった。

【対面との比較】は、対面と比較してオンライン授業はどうだったかを問う項目である。この項目群は、2年生以上に回答を限定しているところが多かった。〈理解度〉〈課題量〉〈課題難度〉〈授業進度〉〈授業の情報量〉〈学習時間〉〈学習意欲〉〈集中力〉〈教員への質問のしやすさ〉などが、対面と比較してどうだったかを尋ねるもの、そしてオンライン授業の〈良い点〉と〈不満点〉はなにかを尋ねる項目などが見られた。

【行動の変化】は、オンライン授業になったことで〈履修登録〉や〈受講態度〉、〈学習時間〉に変化はあったか、また自身に〈プラスの変化〉はあったかを問う項目である。

【その他】には、上述のカテゴリーに含まれない少数の項目が含まれる。これまでに〈大学外のオンライン学習経験〉はあるかを尋ねるもの、当該科目の〈目標達成確認のための直接評価〉項目がここに含まれる。

3.2. 対面授業

次に、「対面授業」に含まれるのは【履修状況】【通学経験】【授業評価】の3つのカテゴリーである。

【履修状況】は対面での〈履修科目数〉を確認するもので、オンラインでの履修科目数とセットで確認するものもある。【通学経験】は〈1週間の通学日数〉や〈通学頻度〉、〈4月以降、初めて登校した時期〉を尋ねる項目などからなる。【授業評価】は「オンライン授業」と同様に、〈満足度〉〈理解度〉〈良かったこと〉〈困ったこと〉〈参加意欲〉を尋ねるものである。

これらの項目は「対面授業」が再開された2020年度後半に用いられていた点で共通している。しかし、「オンライン授業」に比べ項目自体はかなり少なく、5機関のみが使用するに留まった。一方、分析の段階で「対面授業」と「オンライン授業」の結果を比較する機関もあった。

3.3. 授業全般

授業に関して、オンラインと対面とを区別せずに尋ねている項目を「授業全般」として抽出した。ここには【履修状況】【学習時間】【授業結果】【オンライン or 対面】【授業の開講状況】のカテゴリーが含まれる。

【履修状況】には〈ゼミ所属の有無〉〈直近1週間の授業形態〉が含まれる。【学習時間】には〈1科目あたりの学習時間〉や〈1日の授業時間〉が含まれる。【授業結果】には〈A評価を修得した単位割合〉と〈力が身についたと感じる科目数〉が含まれる。【オンライン or 対面】に含まれるのは、〈オンラインと対面の適切な割合〉〈自分にあった授業形式〉〈オンライン授業継続意向〉など、オンラインと対面の比率に関して今後の希望を尋ねるものが多い。尋ね方としては、科目全体のオンラインと対面の割合を尋ねるもの、科目の規模・種類ごとに尋ねるもの、コロナリスクの有無に分けて尋ねるもの、そして授業形態を4種類（対面、リアルタイム、動画配信、教材配信）に分けて尋ねるものなどがあった。

3.4. 大学生活

続いて、カテゴリー・グループ「大学生活」を見ていく。ここには【大学生活全般】【大学進学】【退学・休学意向】【情報確認】【学習支援】【学習経験】【課外活動】【スキル・能力】【キャンパス】【その他】の10のカテゴリーが含まれる。「大学生活」は、「オンライン授業」に次いで項目数が多くなっているが、「オンライン授業」と違い、質問趣旨が多岐にわたるため、結果的にカテゴリー数も多くなっている。

【大学生活全般】は〈学生生活の満足度〉〈大学で重点を置いていること〉〈コロナ禍での大学生活の変化/困りごと〉など、大学生活全般を広く問うものが含まれる。

【大学進学】は〈大学の入試種別〉〈大学選択の理由〉〈大学進学に対する自己評価〉など、大学に進学した経緯や理由を問うものが含まれる。

【退学・休学意向】は〈退学・休学意向の有無〉と〈退学・休学の理由〉を問う項目が含まれる。

【情報確認】は、大学が発信する情報をどのように確認しているかを問う〈大学発信情報の確認方法〉と、その内容に対する満足度〈大学発信情報の満足度〉や理解度〈大学の方針に関する理解度確認〉を問う項目からなる。

【学習支援】は〈メンターに助けられたこと〉と〈休校中の学習サポート内容〉からなる。授業に関する学習支援ではなく、広く大学生活の学習支援を問うているのが特徴である。

【学習経験】は〈学修の充実度〉と〈大学での各種学習の有無/満足度/取り組み意向/達成度〉が含まれる。ここでの学習は、授業での正課内学習に限らず研究や自習、準正課活動や正課外活動、学外での活動などを含んでいるため、「大学生活」のカテゴリー・グループに含めた。

【課外活動】は、アルバイトに関するものとサークルや部活動に関するものの2つに大別できる。前者に関しては〈アルバイトの有無/目的/内容/日数/勤務時間/掛け持ちの有無〉を尋ねるものであり、後者は〈所属の有無〉〈課外活動参加の満足度〉〈課外活動への不安〉を尋ねるものである。なお、アルバイトの収入に関する項目は、次節の「経済状況」に含めている。

【スキル・能力】は、大学生活を通じて〈身につけたい/身につけたスキル能力〉を複数の項目から選択するようになっている。

【キャンパス】は〈自習室の利用頻度〉〈自習室の利用時間〉〈希望した学習環境の有無〉など、大学内の学習環境を尋ねるものと、〈大学の施設が使用できることへの満足度〉や〈キャンパスで大学生らしい生活が送れることの満足度〉など、キャンパスに通うことへの満足度を尋ねるものとがある。

【その他】には〈大学生感覚の有無〉〈学生らしい経験ができないことへの不安〉〈資格・免許取得の不安〉〈学業継続の不安〉〈大学に対する好意〉が含まれる。

3.5. 経済状況

このカテゴリー・グループの中には【収入状況】【支出状況】【家計状況】【学費関連】【給付金・奨学金】【経済的不安】【その他】の７つが含まれる。

【収入状況】は、学生本人の収入源について尋ねる〈主な収入源〉〈大学生活費の収入源〉、本人の収入状況とその変化について尋ねる〈アルバイト収入額〉〈本人収入減の有無/程度/理由〉、保護者や家計支持者の収入変化を尋ねる〈保護者収入の変化〉、収入減への対策の有無とその内容を尋ねる〈生活費収入の対策〉からなる。

【支出状況】は、支出の状況を尋ねる〈支出の状況〉〈アルバイト代の使途〉〈1ヶ月の支出額〉〈1ヶ月に自由に使える金額〉、通常とは異なる出費状況を尋ねる〈通信環境整備のための経費〉〈半年間での特別支出〉、今後の支出計画を尋ねる〈増額/節約したい支出〉からなる。

【家計状況】では〈暮らし向きの楽さ〉〈家計の変化の有無〉〈今後の見通し〉を尋ねている。

【学費関連】では〈学費の支払者〉〈大学生活費用の支払い方法〉〈家族との経済援助関係〉〈大学教育の価値と授業料の関係〉〈オンライン授業に対する学費の適切さ〉を尋ねている。

【給付金・奨学金】では〈特別定額給付金の使い道〉〈大学からの給付金の有無/金額〉〈学生対象の給付金制度で受給したもの〉〈1年間で受けた経済的支援〉〈奨学金受給状況/種類〉〈奨学金返還への不安感の有無〉を尋ねている。

【経済的不安】は〈経済的不安の有無〉と〈今後の収入に対する不安〉からなる。

【その他】として〈コロナ禍の経済的影響の有無〉と〈生育環境の経済的ゆとりの有無〉の項目があった。

3.6. 日常生活

ここには【生活全般】【生活習慣】【メディア利用】【学習時間】の４つが含まれる。

【生活全般】では〈生活の変化〉〈生活の困り事〉〈楽しさを感じるもの〉〈コロナ禍で新たに取り組んだこと〉を尋ねている。

【生活習慣】では、規則正しい生活が送れているかや１日の時間の使い方を確認する〈生活リズム〉、食事の摂取率や食事の時間帯を問う〈食生活〉、睡眠時間や不眠の有無を問う〈睡眠〉の他、〈気分転換の有無〉〈外出の有無〉〈定期的な運動の有無〉〈在宅時の過ごし方〉などを尋ねている。

【メディア利用】では〈SNS の利用経験/目的〉〈インターネット利用の時間/目的〉〈動画の視聴時間〉〈スマホの使用時間〉などを尋ねている。

【学習時間】では〈大学以外の学習時間〉と〈読書時間〉を尋ねている。

3.7. 人間関係・コミュニケーション

このカテゴリー・グループの中には【交友関係】【教員との関係】【家族との関係】【相談相手】【コミュニケーション経験】【対面コミュニケーション】【コミュニケーションツール】の７つが含まれる。

【交友関係】では、現在の友人の数や友人づくり、友人との出会いを尋ねる〈SNS での友人数〉〈大学でできた友人数〉〈一生の付き合いになりそうな大学の友人数〉〈オンラインでの友人づくり経験〉〈友人との出会い〉、交友関係に関する不安や悩みを尋ねる〈友人関係への不安/悩み〉などの項目があった。

【教員との関係】には〈尊敬できる大学教員の数〉が、そして【家族との関係】には〈家族に会えなくて困った〉が、それぞれ含まれている。

【相談相手】では、悩みや困り事があった時に相談をする相手がいるかどうかを問う〈相談相手の有無〉、相談可能な人数を問う〈相談可能な人数〉、具体的な相談相手を選択肢から回答する〈相談相手〉の項目があった。

【コミュニケーション経験】には、友人/家族/教員との会話量やコミュニケーション機会の有無を尋ねる〈友人/家族/教員とのコミュニケーション〉が含まれる。ただし、このカテゴリーでは対面・オンラインを問うていない点で次の【対面コミュニケーション】と区別できる。

【対面コミュニケーション】では〈対面交流の満足度〉〈対面での会話量〉〈人と会う機会〉を尋ねており、対面を強調した調査項目となっている。

【コミュニケーションツール】では〈友人とのコミュニケー

ションツール〉〈媒体ごとの会話人数〉を確認しており、ツールに着目した調査項目となっている。

3.8. 基本情報

ここには【所属】【住まい】の２つが含まれる。

【所属】には〈学年〉〈学部〉〈学科〉〈性別〉が含まれる。【住まい】には〈現在の住まい〉〈通学時間〉が含まれる。

このカテゴリー・グループは、質問紙調査におけるデモグラフィック項目にあたる部分であり、通常はどの調査にも含まれている項目である。しかし、今回の分析で本グループの項目が少なかった（25 件）のは、基本的であるが故にこの項目の公開を省略した機関が多かったためだと考えられる。

3.9. 健康状態

このカテゴリ・グループの中には【身体状態】【精神状態】【健康状態全般】の３つが含まれる。

【身体状態】は〈体の調子〉〈身体的な健康状態〉〈身体的疲労の有無〉〈身体的辛さの有無〉からなる。

【精神状態】は〈悩み事〉〈精神的疲労の有無〉〈ストレス〉〈イライラ〉〈集中力の欠如〉〈気分の落ち込み〉〈気持ちの変化〉〈楽しめない感覚〉〈孤独感の有無〉〈緊急事態宣言時の気持ち〉〈悩みの軽減方法の有無〉からなる。

【健康状態全般】は〈心身の不調〉と〈現在の健康状態〉があり、上記の【身体状態】と【精神状態】を区別せずに尋ねている項目となる。

3.10. キャリア・進路

ここには【将来の見通し】と【就職活動】の２つが含まれる。このカテゴリー・グループの項目は大学以外の機関の使用割合が高いのが特徴である（大学：2、大学以外：4）。

【将来の見通し】では〈今後の進路〉や〈キャリアや就職への不安/悩み〉を問うている。【就職活動】では〈就職活動の不安〉〈内定の有無〉〈就職先選択時の重視項目〉〈インターンシップ参加経験の有無〉〈就職活動における SNS の活用意欲〉などを尋ねている。

3.11. 個人の特性

ここには【授業観】【社会への関心】【ICT】の３つが含まれる。

【授業観】は〈講義聴講意向〉〈教員への質問行動〉〈グループワーク参加意向〉〈知識獲得の方法〉〈自身の学習ペース〉からなる。【社会への関心】には〈興味のある社会問題〉〈SDGs の認知度/関心のあるもの〉〈政治への関心〉〈日本の未来への展望〉が含まれる。【ICT】は〈ICT への興味関心/スキルの有無〉〈プログラミングスキルの有無〉からなる。

このカテゴリー・グループに含まれる各項目は、他の項目と併用して分析する、もしくは経年変化を見ることで、コロナ禍の学生の実態を明らかにしようとする項目であると考えられる。

3.12. コロナ関連

このカテゴリー・グループには【感染不安】【感染予防策】【対応策の評価】の３つが含まれる。

【感染不安】は〈コロナ感染への不安〉と〈コロナ感染の不安を感じる場所〉からなり、コロナウイルス感染に対する学生の不安を直接確認する項目である。【感染予防策】には〈コロナ感染予防のための行動〉と〈衛生面の配慮〉が含まれる。【対応策の評価】は〈大学のコロナ対応の評価〉と〈政府のコロナ対策の評価〉からなる。

3.13. その他

ここには【高校の学習経験】【意見要望】【自由記述】の３つが含まれ、他のカテゴリー・グループに含めることができなかったカテゴリーが並んでいる。

【高校の学習経験】は〈高校時の得意/苦手科目〉〈高校時の全国模試の成績〉が、【意見要望】には〈国/大学への意見要望〉が、【自由記述】には〈自由記述〉が、それぞれ含まれる。

4. 考察

ここまで、大学、大学関係団体、メディア、文部科学省の実施したアンケートについて、どのようなことを把握しようとしているのか、という観点から整理してきた。

調査項目としては、オンライン授業実践に関する項目が多くをしめる。短期間の準備で、キャンパスの閉鎖、オンライン授業の実施が必要となり、大学が授業の成立を優先して【受講環境】の把握をしようとしたことは、当然の反応と言える。前期授業期間中の６月からオンライン授業の〈満足度〉や〈理解度〉に関する【授業評価】が調査項目として表出したことも、大学の授業が成立しているかの確認と捉えることができる。【対面との比較】、【オンライン or 対面】や【授業観】の項目が含まれていることからは、感染状況が落ち着きキャンパスでの活動が緩和された際に、学生と教員の双方に認識されたオンライン授業の有効性をどのように活かすべきなのか、という課題意識が生まれていることがわかる。つまり、オンライン授業に関する調査項目で

あっても、問題抽出、実態把握、今後の意思決定という異なる目的のための項目が含まれているといえる。

一方で、学生の経済状況や精神状態、交友関係や教員との関係を把握しようとする調査項目もみられた。これらは、コロナ禍の学生経験の実態や支援の必要な領域を模索する項目とこれまでにも学生調査に含まれていた調査項目に分けられる。前者は、【身体状態】や【精神状態】の調査項目が当てはまる。〈身体的辛さの有無〉や〈集中力の欠如〉〈緊急事態宣言時の気持ち〉〈孤独感〉などに関するもので、コロナ禍であるが故の項目といえる。後者は、【収入状況】など経済状況や【学習時間】など日常生活に関する調査項目で、全国大学生協組合連合会の学生生活実態調査や日本学生支援機構の学生生活調査結果等、経年で実施されている調査の項目との類似、重複がある。従って、比較を通じてコロナ禍の学生経験の特徴を把握することも可能である。

調査主体によって調査項目の趣旨が異なることも指摘できる。大学が調査主体の場合は、対策の立案と効果検証に活かそうとする項目が多いのに対して、それ以外の機関の場合はより広範に大学を横断した学生の実態を捉えようとしている。

では、これらの項目で、コロナ禍の学生経験を十分に把握できているのであろうか。

大学と学生を対象にした先行研究によると、学生を大学教育の対象者としてだけではなく、独自の文化（学生文化）を持ち、さまざまな生き残り戦略を用いて大学内外の生活を送っている主体的な存在として位置付けた時、学生にとって大学という場、大学生という時間には多面的な意味合いがあることが明らかである（e.g. 川島, 2006；小方, 2018；武内, 2008）。そこで、学習経験の場としての大学、および、自己形成の場としての大学という視点から、本稿で対象とした学生調査の調査項目に欠けていると考えられる観点を述べる。

学習経験という観点からは、大学は正課の授業だけを提供すればいいのではなく、図書館や各種学習支援の整備、ボランティアや留学・インターンシップなどの経験学習の機会の提供、部活やサークル活動の支援、学寮の設置等を通じて、学習環境を整え、学生の包括的な学びを後押ししていくことの重要性が指摘されている（e.g. 美馬, 2013；山田, 2014；山内ら, 2010）。授業で扱われている内容とその他の場所における活動内容が直接的に結びついているものでないとしても、活動経験から得た課題意識が動機付けとなって主体的な学びにつながったり、授業で学んだことが活動のきっかけになったりするなど、全体として意義ある学習経験を構築している。個々の学生の学びや発達に対する大学の影響のメカニズムを説明することを目的とするカレッジ・インパクト研究、関与理論であるエンゲージメント研究の蓄積からも、学習経験の構築には多要素が絡んでいることが明らかである（小方, 2008）。

しかし、今回のコロナ禍での学生生活においては、包括的な学習経験の場を提供できない状態である。例えば、大学教育学会課題研究「大学教育における質的研究の可能性」グループ（2021）が実施したコロナ禍の学生の学びについての質的研究においては、大学に入学して友人関係を築く前にオンラインでの授業実施となり、授業への取り組み方、自分自身の課題の質などに自信が持てないまま、一人で学ぶ学生の声が紹介されている。相互の学び合いや授業を超えた活動との間に起こりうる学びを経験しにくいことの影響については、オンライン授業のみに焦点をあてた調査項目では明らかにすることができないと考える。

大学やキャンパスが大学生にとってどのような役割・機能を持つかについての議論のもう一つの潮流として、発達心理学における青年心理の分野がある。大学教育においては、学生の成長・発達と学びという観点から青年心理学的視点で行われる研究は多く見られるが（e.g. 溝上, 2009）、それらの知見に基づいた取り組みなどは少ないのが現状である。最もオーソドックスに青年心理学的視点から見ると、大学生は青年期の発達段階にあり、発達課題でもあるアイデンティティ形成の過程にあるといえる。

大学とアイデンティティ形成の関連についてはこれまで、個人の時間的展望（将来へのイメージ）（e.g. 長峯・外山, 2019）、大学生としての自己観（e.g. 保坂, 2015）、大学での学び（e.g. 畑野・原田, 2015）などが関連することが示されている。なかでも他者や大学との関係（集団への帰属意識等）は、重要な要素と考えられる。例えば、吉川・粟村（2014）では、「受容される場所」や「成長できる場所」を持っているという心理的居場所感がアイデンティティ確立に関係していることを示しており、アイデンティティ形成における大学生の他者との親密な交流のある場所を持っているという感覚の重要性が示唆されている。

さらに山田（2018）によれば、近年特に大学教育におけるプロセス指標の必要性の高まりに合わさり、学生の経験としての学生の成長や学びの視点が重視されるようになっている。その中で、学生エンゲージメントという概念が提示されている。この学生エンゲージメントには、学生の発達と学びを促すための関与には、学生のみならず、大学、教職員それぞれが払う関与も包含されており、まさに、それらの相互作用によって学生の成長や学びが促進されることが想定されている。

これらの知見からは、青年期としての大学生は、大学に

まつわるさまざまな要素と相互作用しながら、大学を自己形成の場、時間として経験していることが分かる。つまり、大学の役割においては、大学生に学習の場を提供することだけにとどまらず、さまざまな他者との交流や居場所感を経験できる場を提供していくことも重要だと考えられる。

このような視点からこのコロナ禍での学生調査をみてみると、友人との交流や正課外の活動の有無など表面的な事象については捉えられているが、それらが深層的にアイデンティティ形成に与えている影響についてはほとんど捉えきれていない。もっと言えば、そもそもそれらの経験の中で起こる葛藤やそれらを支える居場所感や受容感などは想定もされていない。

コロナ禍での緊急の調査であったということを考えると、そこまでの内容に踏み込んだ調査は想定できなかったのかもしれない。しかし、コロナ禍が引き起こした“大学生としての実感的な経験”の不足は今後のアイデンティティ形成に大きな影響を与えることが考えられる。アイデンティティ形成という観点からも、長期的なスパンでこの年代の学生を追っていくような調査も必要かもしれない。

5. おわりに

ここまで、コロナ禍の学生経験を把握するための調査設計に向け、2020年度に行われた学生調査を概観し、既に把握されていることの観点を整理し、さらに必要な観点が何かを論じてきた。

2020年度に実施された学生調査からは、キャンパスを閉鎖した状態で授業を成立させるための問題抽出と実態把握を目的とした調査項目が多くみられ、一部、今後の授業方法に関する意思決定に関連する項目が確認された。授業以外、大学生活全般に関する調査項目には、コロナ禍に特化した内容の項目と、通常時に実施されている学生調査と類似した項目がみられた。また、調査主体により、趣旨が異なることも確認された。

その上で、多面的な意味合いを持つ学生にとって大学という場、大学生という時間という観点から調査項目を概観した結果を考察すると、学習経験の場としての大学、自己形成の場としての大学という視点が欠けていることが確認された。コロナ禍の学生経験の長期的な影響について検証するための調査項目や調査方法を検討する際には、相互の学び合いや授業を超えた活動との間に起こりうる学びに関する項目や、大学での実感的な経験とアイデンティティ形成に関する項目を含めていく必要があると考える。また、長期的なスパンでこの世代を追うような調査設計も必要であろう。

今回、分析の対象とした学生調査は、広島大学高等教育研究開発センターの情報リンク集を参考にしており、本リンク集が大学教育・オンライン、TA授業等に関する調査を集めていることから、授業に関する調査項目が多い結果となった可能性もある。また、学生調査の多くは、個人情報の観点から、学内限定での実施・公開となっている場合も多く、網羅的に学生調査を分析することは困難である。従って、分析対象に偏りがあったことは否めない。

しかし、コロナ禍でのキャンパスの閉鎖、オンライン授業への移行、学生支援について、国内の大学が一斉に対応を求められることになったことで、これまでにはない形での大学間での情報共有が進んだ。例えば、国立情報学研究所は2020年3月末より週1回から隔週ペースで遠隔授業や教育DX等に関する情報共有のためのサイバーシンポジウムを開催し、そこで、さまざまな大学の取り組み事例が発表されている。各大学が他大学での取り組みを参考にしながら、コロナ禍の大学運営に取り組んできた。学生調査についても、同様のことが言える。調査項目の選定にあたり、他大学の学生調査を参考にしたであろうことは、想像に難くなく、実際、多くの共通した項目が確認されている。つまり、今回対象とした学生調査は、ある程度、国内の大学や関連団体の観点を代表したものであると考えても差し支えないだろう。

本稿で明らかにしたことを道筋に、コロナ禍の学生経験を把握するための調査設計および実施することが、今後の課題である。

注

[1] 例えば、産経新聞『都内感染者の7割は30代以下　若者のワクチン忌避に危機感』2021年8月1日　https://www.sankei.com/article/20210801-VGPAMN2NWRJZJKSE4FJB6TOSRU/（2022年1月7日）

[2] 共同通信『若者、東京で買い物やカラオケ　外出自粛「気にしない」「遅い」』https://newspicks.com/news/4766060/（2022年1月7日）

[3] 例えば、朝日新聞デジタル『コロナ禍の大学生、2年生は孤立しがち　同世代と会えず』2021年8月10日 https://www.asahi.com/articles/ASP8B5F9PP88UTIL01S.html（2022年1月7日）

引用文献

大学教育学会　課題研究「大学教育における質的研究の可能性」グループ編著（2021）.『コロナ禍で学生はどう学んでいたのか―質的研究によって明らかになった実態』ジアース教育新社.

畑野　快・原田　新（2015）.「大学生の主体的な学習を促す心理的要因としてのアイデンティティと内発的動

機づけ：心理社会的自己同一性に着目して」『発達心理学研究』25, 67–75.

広島大学高等教育研究開発センター（2020）.『新型コロナウイルスをめぐる大学教育・オンライン、TA 授業等に関する調査研究、取り組みの動向（情報リンク集）』（https://rihe.hiroshima-u.ac.jp/2020/08/covid-19-research/）（2021 年 11 月 30 日）

保坂裕子（2015）.「大学生は自らが「大学生である」ことをどのように意味づけているのか：ピア・グループインタヴューによるナラティヴ・アイデンティティ分析の試み」『兵庫県立大学環境人間学部研究報告』17, 29–38.

細野豪志（2020 年 7 月 31 日 Twitter）（https://twitter.com/hosono_54/status/1289082899061280768）（2022 年 1 月 7 日）

伊藤大幸（2021）.「コロナ禍の大学で何が起きているのか：オンライン化がもたらす大学教育の革新」中部大学 現代教育学研究所（編）『コロナ禍における教育とポスト・コロナ時代の教育』学術図書出版社, 121–136.

川喜田二郎（1967）.『発想法：創造性開発のために』中央公論社.

川島啓二（2006）.「青年の「移行期問題」と大学教育の課題―産学連携教育の可能性の視点から―」『国立教育政策研究所紀要』135, 37–44.

美馬のゆり（2013）.「学習の共同性と社会性を活かした学生と教員の学びの場のデザイン（第 19 回大学教育研究フォーラムシンポジウム「学び」を改めて問う：主体的な学びとは何なのか）」『京都大学高等教育研究』19, 126–135.

溝上慎一（2009）.「大学生活の過ごし方」から見た学生の学びと成長の検討 正課・正課外のバランスのとれた活動が高い成長を示す」『京都大学高等教育研究』15, 107–118.

文部科学省（2020a）.『大学等における新型コロナウイルス感染症への対応ガイドラインについて（周知）』（https://www.mext.go.jp/content/20200605-mxt_kouhou01-000004520_5.pdf）（2022 年 1 月 7 日）

文部科学省（2020b）.『大学等における後期等の授業実施方針等に関する調査』（https://www.mext.go.jp/content/20200915_mxt_kouhou01-000004520_1.pdf）（2022 年 1 月 7 日）

文部科学省（2020c）.『大学等における本年度後期等の授業の実施と新型コロナウイルス感染症の感染防止対策について（周知）』（https://www.mext.go.jp/content/20200916-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf）（2022 年 1 月 7 日）

文部科学省（2020d）.『萩生田光一文部科学大臣記者会見録（令和 2 年 10 月 16 日）』（https://www.mext.go.jp/b_menu/daijin/detail/mext_00101.html）（2022 年 1 月 7 日）

文部科学省（2020e）.『大学等における後期等の授業の実施状況に関する調査』（https://www.mext.go.jp/content/20201223-mxt_kouhou01-000004520_01.pdf）（2022 年 1 月 7 日）

文部科学省（2021）.『新型コロナウイルス感染症に係る影響を受けた学生等の学生生活に関する調査等の結果について』（https://www.mext.go.jp/content/20210526-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf）（2022 年 1 月 7 日）

長峯聖人・外山美樹（2019）.「ノスタルジアが時間的態度に与える影響：―本来性を媒介要因として―」『教育心理学研究』67, 190–202.

小方直幸（2008）.「学生のエンゲージメントと大学教育のアウトカム」『高等教育研究』11, 45–64.

小方直幸（2018）.「授業を通じた学生の成長：善意の促進と無意識の疎外」『IDE：現代の高等教育』598, 9–14.

佐藤郁哉（2008）.『質的データ分析法：原理・方法・実践』新曜社.

武内　清（2008）.「学生文化の実態と大学教育」『高等教育研究』11, 7–23.

山田礼子（2014）.「アクティブ・ラーニングを通じての学生の学びとそれを支える環境」『大学教育学会誌』36（1）, 412–421.

山田剛史（2018）.「大学教育の質的転換と学生エンゲージメント」『名古屋高等教育研究』18, 155–176.

山内祐平（2021）.「コロナ禍下における大学教育のオンライン化と質保証」『名古屋高等教育研究』21, 5–25.

山内祐平、林　一雅、西森年寿、椿本弥生、望月俊男、河西由美子、柳澤　要（2010）.『学びの空間が大学を変える』ボイックス株式会社.

吉川満典・粟村昭子（2014）.「心理的居場所の研究：大学生のアイデンティティの確立と情動知能の見地から」『総合福祉科学研究』5, 41–50.

Articles by the Center Staff and Research Fellow

Designing a student survey to capture student experience during the covid pandemic: Overview of the student survey questions conducted in 2020

Katsuhiko Nakanishi, Lisa Katsuma, and Machi Sato

(Center for the Promotion of Excellence in Higher Education, Kyoto University)

Since April 2020, universities had to take challenging decisions to close the campus, shift face-to-face classes to online and stop extracurricular activities in order to take account of the health and safety of students and staff. Under such circumstances, students have been experiencing disrupted student life over a year. With the prolonged "with corona" student experience, the question should be asked as to how these student experiences may affect future student life and life after graduation. Therefore, the purpose of this paper is to review the student surveys conducted in FY2020 in order to design a survey to understand the student experience during the corona pandemic and to identify what further perspectives are needed. As a result, it became clear that the perspectives that position the campus as an environment that enriches students' learning experience, and the perspective of the impact of student life on the development of adolescent identity were overlooked in these surveys. In the future, it will be necessary to design surveys that incorporate these perspectives in order to gain an enriched understanding of the student experience during the pandemic.

Keywords: Student experience during the corona pandemic, student survey

付録　本研究で対象とした調査リスト（実施主体名，実施時期，調査名，リンク先）

1. 文教大学教育研究推進センター，2020/6/12–6/15，オンライン授業に関する学生アンケート
http://www.bunkyo.ac.jp/faculty/kksc/news/968
http://www.bunkyo.ac.jp/faculty/kksc/wp-content/uploads/2020/07/2020tokubetsuiinkai-online.pdf
2. CCC マーケティング株式会社，2021/3/10–3/15，【生活者意識調査】2020 年度大学生の学びと環境
https://www.cccmk.co.jp/thinktanks/column-19
3. CODEGYM Academy，2021/4/19–4/23，news/20210423
https://academy.codegym.jp/news/20210423/
4. 広島大学_教育室，2020/6/11–6/15，第 2 タームの受講に関する調査
https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/information/topics/43aa6bdb8ba26698ecf53959925fea4c7cae3709.pdf
5. 広島大学_教育室，2020/7/27–8/16，学生による授業改善アンケート
https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/information/topics/43aa6bdb8ba26698ecf53959925fea4c7cae3709.pdf
6. 広島大学_教育室，2020/10/1–11/4，学生生活に関する新入生・在学生アンケート
https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/information/topics/43aa6bdb8ba26698ecf53959925fea4c7cae3709.pdf
7. 茨城大学，2020/6/4–6/26，遠隔授業に関する学生アンケート
https://www.ibaraki.ac.jp/news/2020/08/07010917.html
8. 一般財団法人あしなが育英会，2020/10/23–11/5，長引くコロナの影響インターネット調査
https://www.ashinaga.org/ja/documents/press_201130_3.pdf
9. 城西大学，2020/6/1–6/10，オンライン講義に関する学生アンケート
https://www.josai.ac.jp/albums/abm.php?f=abm00046933.pdf&n=オンライン講義に関する学生アンケート結果報告.pdf
10. 株式会社共立メンテナンス，2021/1/6–1/22，コロナ禍における授業状況と生活に関する調査
https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000091.000030012.html
11. 株式会社マイナビ，2020/11/26–12/23，マイナビ 2022 年卒大学生のライフスタイル調査〈with コロナ編〉
https://dugf25wejf35p.cloudfront.net/wp-content/uploads/2021/02/22 年卒ライフスタイル調査前半リリース 02081542.pdf
12. 関西大学__教学 IR プロジェクト，2020/12/7–2021/1/6，2020 年度秋学期実施「対面授業に関する学生アンケート」
https://www.kansai-u.ac.jp/ir/taimen_survey_2020au_digest.pdf
13. 慶應義塾大学 SFC_カリキュラム委員会，2020/5/12–5/18・2020/7/6–7/12，オンライン授業受講に関する調査
https://drive.google.com/file/d/13QqHfn6Aj5eVaATLt0kknDzwsh13F6ux/view
14. 国際基督教大学，2020/5/22–5/31，オンライン授業に関するアンケート
https://www.icu.ac.jp/news/2008151300.html
15. 京都外国語大学，2020/6/2–6/9，遠隔授業等のアンケート
https://www.kufs.ac.jp/cms_image/file/file_1592463214.pdf
16. 京都芸術大学，2020/7/15–7/22，2020 年度前期オンライン授業アンケート
https://www.kyoto-art.ac.jp/student/wp-content/uploads/2020/08/16ffcad9253db7440597b8b30e6a6dbc.pdf
17. 京都ノートルダム女子大学_教務委員会，2020/4/28–5/3，オンライン授業に関するアンケート（学生）
https://www.notredame.ac.jp/pdf/cms/2020online_houkoku.pdf
18. 九州大学，2020/6/1–6/9，オンライン授業に関する学生アンケート（春学期）
https://www.nii.ac.jp/event/upload/20200710-08_NoseNaganuma.pdf
https://www.kyushu-u.ac.jp/f/40309/20_08_11_01.pdf
19. 九州大学，2020/6/1–6/9，令和 2 年春学期学生生活およびオンライン授業に関する学生アンケート
https://www.chc.kyushu-u.ac.jp/~webpage/publication/img/R2_student_questionnaire_result_report.pdf
20. 九州大学経済学研究院，2020/6/19–6/29，経済学部・学府のオンライン授業に関する学生アンケート調査
https://www.econ.kyushu-u.ac.jp/wp-content/uploads/2020/07/online_20200728_questionnaire.pdf
21. LINE リサーチ，2020/4/15–4/17，（コロナ禍における大学生への生活影響）
https://research-platform.line.me/archives/35015867.html
22. 文部科学省，2021/3/5–3/27，新型コロナウイルス感染症の影響による学生等の学生生活に関する調査
https://www.mext.go.jp/content/20210526-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf

23. 武庫川女子大学_遠隔授業推進特別チーム, 2020/6/1–6/10, 第2回　遠隔授業に関する調査
https://www.mukogawa-u.ac.jp/pdf/0710-1.pdf
24. 武庫川女子大学_遠隔授業推進特別チーム, 2020/8/6–8/23, 第3回　遠隔授業に関する調査
https://www.mukogawa-u.ac.jp/pdf/1024-1.pdf
25. 武蔵大学FD委員会, 2020/8/1–8/18, 2020年度前学期オンライン授業アンケート
https://www.musashi.ac.jp/about/activities/ahdlv300000003me-att/eu48bl0000002gir.pdf
26. 武蔵大学FD委員会, 2020/10/21–11/4, 2020年度後学期オンライン授業アンケート
https://www.musashi.ac.jp/about/activities/ahdlv300000003me-att/eu48bl000000jn4m.pdf
27. 岡山大学, 2020/7/1–7/13, 第1回オンライン授業に関するアンケート
https://www.iess.ccsv.okayama-u.ac.jp/hedi/kakusyusiryo/survey_onlineclasses/
28. 大阪教育大学, 2020/5/11–5/15, 学習・生活調査
https://osaka-kyoiku.ac.jp/Portals/0/files/faculty/class/online/onleine_student_results202005.pdf
29. 大阪教育大学, 2020/6/24–6/30, 第二回学習・生活調査
https://osaka-kyoiku.ac.jp/Portals/0/files/faculty/class/online/onleine_student_results202006.pdf
30. 大阪教育大学, 2020/10/15–10/21, 第三回学習・生活調査
https://osaka-kyoiku.ac.jp/Portals/0/files/faculty/class/online/onleine_student_results202010.pdf
https://www.mukogawa-u.ac.jp/pdf/1024-1.pdf
31. 麗澤大学, 2020/6/10–6/14, オンライン授業に関するアンケート
https://www.reitaku-u.ac.jp/news/news/75575/
32. 立教大学_大学教育開発・支援センター＿教学IR部会, 2020/5/16–5/21, オンライン授業についてのアンケート
https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/qo9edr0000005dbr-att/Study_online_200516_0521.pdf
33. 立教大学経営学部データアナリティクスラボ（電通育英会寄附型研究プロジェクト）, 2020/7/14–7/23, オンライン授業に関する学生意識調査
https://www.rikkyo.ac.jp/news/2020/09/mknpps000001bg3b-att/report.pdf
34. 立正大学, 2020/12/23–2021/1/13, 令和2年度学生状況調査
https://www.ris.ac.jp/whatsnew/2020/hsu16300000161zh.html
35. 白百合女子大学, 2020/6/12–6/18, 2020年度前期「遠隔授業に関する状況調査アンケート」
https://www.shirayuri.ac.jp/news/2020/20200709_fd01.html
https://www.shirayuri.ac.jp/news/2020/usftro0000007o6b-att/fdenquete_2020_01.pdf
36. 昭和女子大学髙木ゼミナール, 2020/4/10–11,【昭和女子大学生アンケート調査結果報告】オンライン授業の学生受講環境
https://univ.swu.ac.jp/files/2020/04/718739e872e23f471c06687598492d33.pdf
37. 千葉商科大学, 2020/7/13–7/16, 春学期遠隔授業に関するアンケート
https://www.cuc.ac.jp/news/2020/mstsps0000026jc5.html
38. 東京大学新聞社, 2020/7/15–7/19, 検証　東大のオンライン授業（アンケート編）
https://www.todaishimbun.org/online_class20200808/
39. 東京工業大学, 2020/6/2–6/5, COVID-19対応によるオンライン授業等の受講・学習・生活状況アンケート調査
https://www.citl.titech.ac.jp/online_questionnaire/
40. 東京工業大学, 2020/8/4–8/16, オンライン授業および学習観に関するアンケート調査
https://www.citl.titech.ac.jp/online_instruction_survey/
41. 東北大学, 2020/6/11–6/25, 全学オンライン授業アンケート
https://www.tohoku.ac.jp/japanese/studentinfo/education/01/education0100/ed_newnormal_04.pdf
42. 東洋大学現代社会総合研究所__ICT教育研究プロジェクト, 2020/7, コロナ禍対応のオンライン講義に関する学生意識調査
https://www.toyo.ac.jp/-/media/Images/Toyo/research/labo-center/gensha/research/52395/1questionnaire.ashx
43. 早稲田大学_大学総合研究センター, 2020/8/3–8/22, オンライン授業に関する調査（2020年度春学期）
https://www.waseda.jp/top/news/70555
44. 早稲田大学_大学総合研究センター, 2021/2/3–2/17, オンライン授業に関する調査（2020年度秋学期）
https://www.waseda.jp/inst/ches/news/2021/05/17/3291/
45. 全国大学生活協同組合連合会, 2020/10–11, 第56回学生生活実態調査
https://www.univcoop.or.jp/press/life/report.html